

大分県立高等学校第三者評価【評価書B】

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 杵築 高等学校	
学校教育目標	「尚学・剛健・真摯・向上」の校訓のもと、自らを鍛え、他者と協働しながら自己の主體的な生き方を決定できる、心身の調和のとれた生徒の育成に努める。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・内唯一の進学の拠点校であるが、時代の要請に応える「国際的な広い視野を持って地域に貢献できる人材を育成する」という学校経営ビジョンを明確に策定するという方向性は評価できる。その際、協働性や人権へ感性の育成とともに、新年度からはじまる新カリキュラムでは主体性の育成に大きな期待があり、学びの主体性や進路に係る主体性の育成を、教育活動の主軸として取り組むことが重要である。 ・校長のリーダーシップの下、第1回の訪問で指摘した課題の解決に意欲的に取り組む様子が見られ、各分掌の責任者も課題に意欲をもって生徒を指導し、教育活動が展開されている様子が伺える。 ・授業を観察した限りでは、生徒は真面目に取り組んでいるが、静かで応答性が殆どなく、言語活動が不十分である。問題解決の局面では生徒は教師のヒントを待って思考を停止している状況が見られる。教師はヒントを繰り返すのではなく、その中身に関する発問を投げかけ、生徒の思考を促すという展開を工夫する必要がある。解決の気付きの主体は生徒であるからだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路保障につながる学力の育成と同時に、学ぶ楽しみが感じられるような魅力ある授業展開を、各教科で検討していく。 ・教科で学んだ知識や技能を用いて、教科を超えた内容にも関心を示し、思考していく態度を育成する。 ・表現力の育成を授業改善の柱とし、言語活動を軸に授業展開を構築していく。
	P D C A サイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・課題解決に向けて組織的な運営・責任体制は整備されている。ICTの活用に関する支援委員会の努力によって研修が進展しており、授業におけるICTの利用も充実してきている。タブレット端末を利用した授業では、授業の焦点化や生徒の学習状況を即時に把握できるが、活用の幅を拡充することが望まれる。 ・6段階による授業評価を改めて実施して現状把握にこめ、探究へと軸足を移した授業のあり方を教員間でしっかりと認識し直している。応答性を高める教師の発問を見直し、充実をいっそう図る必要がある。また、授業の展開や終局の局面でのヒントやまとめは、発問に切り替え、生徒の思考を促すように構成することが重要である、この点に関して、自己評価とPDCAサイクルを活用して検証や改善を進めることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用では、委員会組織の強化を図り、効果的な利用を職員に提示していく。また、環境整備についてさらに拡充を図る。 ・単元の流れを維持しながら、一時間完結型の授業展開を各教科で取り組んでいく。 ・深い学びにつながるよう、校内研究授業等の機会を活用して、発問の仕方にも更なる工夫をしていく。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・HPやカラフルな写真等を活用して「杵高だより」、学年通信などを発行し、中学校訪問や中高連絡会などの折りに10回に及ぶ広報活動を行うとともに、保護者や地域への積極的な情報の伝達に努めている。 ・SCの人権に関する講演会、オランダ駐日大使の講演会、社会への旅立ちセミナーなど、外部の人材を活用して生徒の進路決定の意欲付けを図っているはずらしい。また、杵築市との連携を図って地域探究講演会を開催して、フィールドスタディを進めて生徒の課題意識を育み、地域理解の促進にしっかりと取り組んでいる。 ・生徒や保護者へのアンケートを実施し、生徒や保護者の学校への満足度は高く、保護者の要望を把握し、その対応に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育内容を関係者に周知していくために、今年度と同等以上に情報発信をしていく。 ・生徒の学習意欲の向上と新たな気付きに繋がる、外部人材の活用及び志四海プロジェクトを、次年度も複数回実施していく。 ・保護者や生徒へのアンケートは、改善点に分かるよう内容を適宜見直し、学校満足度の高評価を維持していく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてP D C A サイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・探究的な学びの育成という授業のあり方を教員間で認識を深め、問題解決的な授業の展開に取り組んでいることは評価できる。ICT機器の活用も進行しており、生徒もタブレット端末を使う学習に意欲的に学んでいる。 ・授業観察した限りでは、本時の授業目標が板書に少なく、教師の発問が乏しく、生徒からの問いは皆無であった。特に、問題解決の局面では、教師はヒントを出すのではなく、ヒントの中身に係る発問を繰り返して生徒の思考を促すことに努め、生徒が主体的に解決に挑んでいるという授業の状況を作り出すことが重要である。ヒントを発問に転換して生徒の能動的な思考を誘発する授業場面の構築こそ教師の仕事である。 ・また、問題解決の終局では、まとめを教師が一方的に語るのではなく、キーワードは何か、それらはどんな表現でまとめられるかを問いかけて言語活動を誘発し、その後教師が補充し、生徒のメタ認知を促す授業の展開が大切である。問いが飛び交う授業空間の醸成こそ大切で、主体性が発揮され授業の参加が楽しくなる。 ・タブレット端末に課題を提示し、予習を促す学習のあり方は、生徒の主体性を担保する方法として期待される。予習で生徒が抱く問いや疑問をいかに授業に組み込むか、その展開を工夫することも重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用は、調べ学習から発表までの一貫した利用を指導していき、生徒の思考力、判断力、表現力を育成していく。 ・授業目標を生徒に意識させる授業展開と、生徒の問を引き出す発問の工夫により、学びに向かう主体性を育てる授業づくりを進める。 ・学習補助のためのソフトを活用して家庭学習を充実させ、予習→授業→復習のサイクルを定着させる取組を推進していく。 ・対面授業においては、生徒個々が主体的に取り組む指示を含めた展開を考えていく。
	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・3年間を見通した計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況の把握に努め、授業などで特に気になる生徒については、学年会で情報を共有して、丁寧な指導に努めている。 ・年2回のいじめアンケートでは、いじめ事案は確認されていない。若干の不登校生がいるが、教育相談委員会によって組織的に適切な対応がなされている。 ・「SC便り」も年5回発行して生徒・保護者の啓発に努めると共に、SSWIに相談ができる体制もできている。 ・生徒ヒアリングによると、生徒と教員は良好な関係が築かれており、安心して学校生活を送れるようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩みを抱えている生徒も少なからずいることから、教育相談を中心に学年と連携して支援していく。 ・外部人材の協力体制(SC、SSW)も整ってきたので、今後も継続した支援や見守りを継続する。 ・保護者との情報交換も丁寧に実施していく。
安全・安心な教育環境	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・自転車通学の生徒の安全確保のために、努力義務化されたヘルメットの着用についてもしっかりと取り組みが行われており、対人の重大な事故は発生しておらず、指導の効果が伺える。 ・生徒会主体の火災避難訓練をしており、学校における災害への取り組みは熱心である。学校外の生活での災害について、生徒のタブレットにハザードマップの情報を取り入れ、地域住民として認識を深め、直ちに適切な行動が取れるような教育が求められる。 ・各種の緊急事態を想定した詳細な危機管理マニュアルも整備され、目次を付けて取り扱いやすさにも配慮して、危機管理に関する取組として大いに評価できる。衛生委員による校内巡視を行い、安全衛生問題の調査・改善に取り組んでいる。AEDについても消防局の指導の下で研修を行い、安全に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学生が多いので、安全確保のためのヘルメットの着用及びルールやマナーの指導は定期的に継続して行う。 ・防災への意識向上は、災害時に近づけた訓練や防災マップの周知などに継続して取り組んでいく。 ・次年度も、校内の安全点検で見つかった問題点は早急に改善していく。
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが図られているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進の高校を視察して、ICTの活用を進めており、ペーパーレス化で業務改善を推進している。 ・部活動の終了時間の厳守を確認し、生徒の通学時間や勉強時間の妨げにならないように努めている。 ・生徒の悩み相談に応じると時間外に及ぶこともありうるが、「定時退庁チャレンジウィーク」の取り組みを定着させるなど、意識改革の取り組みを推進することが望まれる。 ・コロナ禍であるが、感染状況が改善した2学期に学校行事を実施し、行事の精選、見直しは図られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化を図るために、情報管理に注意しながら、ペーパーレス化を更に進めていく。 ・学習と部活動の両立の推進、教育効果に配慮した行事の見直しには継続して取り組む。 ・働き方改革では、新たな取組の提案も検討し、職員の意識改革を図っていく。
信頼される学校づくり	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育を通して、地域に信頼される学校づくりを行い、定員確保に向けた取組が行われているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の魅了的、特色ある取組を行い、地域に発信しているか。 ・地域との連携、協力等を行い、郷土を愛し、郷土の発展に貢献する意欲・態度の育成が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統ある進学の拠点校として、充実した授業で学力の向上に努めているが、「定員確保」に苦労している。学校を活性化し、本校の魅力化、差別化を図る必要を強く感じられる。 ・進学だけが学校の魅力ではないはず。広い視野を確保して地域の課題や魅力に明るく、人間的にも魅力があり、地元で生きる覚悟を持った意欲ある人材を、楽しい学校生活を通じて育成する工夫が期待されている。 ・地域が期待する人材を幅広い視点で検討し進学校の枠を脱して、資格取得の基礎となる学習ができる、より実践的なコースを構想することも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学定員の確保に向けて、中学校との連携を深める。中学校訪問やオープンスクールをとおして本校の教育活動をPRし魅力を理解してもらう。 ・生徒の要望に応える教育活動が実施できる体制を、今後協議していく。
	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点校として伝統をふまえつつも社会の要請を視野に入れた学校教育目標を明確にし、学校の教育課題を踏まえた経営ビジョンは的確である。生徒や保護者に魅力ある学校となるべく、どんな人材を育成するのかを見直すことが望ましい。 ・校長のリーダーシップのもとに、教職員は丸となって各自の役割を果たすべく取り組んでいることが伺えるが、主任との面談では課題意識がやや不足していると思われる。進路係はAO入試に利用できる実績作りで文化系の部活の充実化を図り、生徒係は学び舎に誇りをもつためにも、生徒の活動によって学校環境を整備・維持するように指導することが望ましい。 ・授業の改善は探究的な授業の構築に向けて軌道にのりつつあるが、応答性が不十分で、生徒は受け身的で、主体性に欠ける。生徒の主体的な問題解決の態度を育成するあり方が喫緊の課題である。特に、授業の展開や終結の局面における発問の工夫が不十分である。教師はヒントを繰り返すのではなく、その内容を発問に託し、生徒の問題意識を醸成したり、気付きの機会を重視し、言語活動を豊かにし、生徒が主体となるように授業を構成することが必要である。また、終結のまとめの段階は、生徒のメタ認知を構成する重要な活動であり、教師のまとめでなく、キーワードを問い、それを用いて表現する活動を生徒にさせることが肝心である。生徒からの問いが飛びかう授業のあり方が期待される。 ・タブレット端末を手にした生徒の授業への期待は大きく、調べることの面白さを味わい、意欲的に活用している。教室のWi-Fiの容量が十分でないとの生徒の声があり、早急にICT環境の整備が必要である。 ・4つの運動部が大分県の強化指定を受けるほどに部活動は盛んである。生徒会は挨拶運動を推進し、校内美化にも取り組むとともに、募金活動に係るボランティア活動も行っている。 		
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の「強み」や「育成する資質・能力」等について職員から多くの意見を吸い上げてスクールポリシーを策定し、全職員の共通理解の上に教育活動を計画していく。 ・分掌会議の定例化により、企画及び提案において、組織としての取組をさらに推進し、課題解決を踏まえた提案につなげる。 ・学校環境については、これまでと同様に職員と生徒が一体となって整備し、心安らぐ環境となるよう一層努める。 ・授業改善では、生徒からの質問や意見を引き出す発問を工夫し思考力及び表現力の向上に取り組む。 ・授業展開では、予習→授業→復習のサイクルを確立、本時の振り返りでの整理、授業内容の定着を意識して実施する。 ・ICT環境は徐々に改善している。生徒の学習スペースの環境整備は、今後も継続して改善していく。 ・部活動や生徒会活動への積極的参加を推奨し、人間力を高め、地域や社会に貢献できる人材の育成に努める。 			